

三年先の稽古

校長 桐野 和之

自分の経験にもありますが、何か目標をもって取り組んだのに、わずかな期間努力しただけで、あるいはちょっと取り組んだだけで結果が出なかったために、簡単に諦めてしまったことってないでしょうか。ところが、これを長い人生で後に振り返ると何ともったいないことをしてしまったと後悔することがあります。その時には自分の可能性に気づかず、いとも簡単に、ただ面倒くさいというような理由からやり過ごしてしまったのです。たとえば、ただ練習が厳しいとか、自分の時間が取れないからとか。今号ではそのような後悔を皆さんにさせないために、相撲界にある「三年先の稽古」という言葉を紹介します。この言葉は、元横綱千代の富士、大相撲の九重親方がインタビューで語っていたものです。



『三年先の稽古』という言葉があるんだけど、今日、明日とか一週間ぐらいやっただけですぐに力をつかない。毎日毎日稽古することによって三年ぐらいたってようやく稽古の貯金ができ、本当の相撲の力ができてくる。そういう信念をもってがんばれる子はよくなっていく」と。今も貫井中学校で皆さんのようすを見てみると、一日一日を大切に一生懸命に取り組んでいる人が多くいます。それに加えて、三年先を考えて今トレーニングに励もうということです。

三年生は今年、進路決定に向けて動く時。高校進学を希望している人が多いと思いますが、高校に入ってから三年後の姿を思い描いて、今の自分を良く見つめてください。また、一、二年生も目先のことに目を奪われて右往左往することなく、三年先にも楽しく、意欲的に何かに取り組めるよう、自らの課題をしっかりと自覚してほしいと思います。九重親方はさらに、次のようなことも言っています。



「とにかく今、現状を頑張らなければまず無理。若い子は毎日、がむしゃらに目いっぱい…」という言葉です。当然のことですが、三年先のことを考えると同時に、そのためには、今ここでやるべきことをがむしゃらにやり抜かなくてはならないということです。相撲界では、「今強くなる稽古と、三年後に強くなる稽古と、両方やらなくてはならない」とも言われています。さらに、「一日さぼれば自分にわかる。二日さぼれば師匠にわかる。三日さぼればお客にわかる」という言葉もあるようです。今のままの自分で良いのかよくないのかは、自分自身がよくわかっているはず。もしそのことを先生や保護者から言われたなら、素直に認めましょう。そして、改善しなければならないことは、三年先の自分の姿を思い浮かべて早いうちに改善しましょう。皆さんはこれからもっともっと成長していくわけですから、一生懸命努力しても、わからないことや出来ないことがあることは決して「恥」ではありません。しかし、わからないことや、できないことを、そのままにしておくことが「恥」になります。今、わからないこと、できないことは、今のうちにできるよう努力すればよいのです。それを怠り、そのままにしておく、将来大きな恥をかきます。自分を変えるには、勇気と努力が必要です。日々の中学校生活を通じて、皆さんが自分自身を見つめなおし、三年先の自分を考えられるような力を身に付け、将来の目標を達成していくことを期待しています。



学校保健委員会 (9/2)

学校保健委員会が9月2日(水)に実施され、学校医さん、薬剤師さん、PTA役員・委員さん、教職員が参加しました。

主なテーマは「新型コロナウイルス感染症から生徒の健康を守る」です。

会では学校の感染対策や取組、現状の子どもたちのようすについて報告をしました。また、保護者の方々からは学校が臨時休業となっていた頃の子どもたちの実際のようすなどについてお話しいただきました。

学校医の先生方には、予め用意しておいた学校からの質問、その他にお答えいただきました。コロナ対策等として頂いた一部の回答を紹介します。



Q 3密を避ける、マスクの着用、手洗い、うがい以外の予防策はありますか？

文部科学省教育指導資料によりますと、上記以外の対策として、咳が出る場合の咳エチケットが挙げられています。マスク着用とも重なるのですが、飛沫感染を防ぐため、マスクがない時はティッシュやハンカチ、または袖口で鼻を覆うことが必要です。マスクをしていても咳をするときはさらにハンカチなどをあてることが望ましいと思います。その他、清掃時、机、教室やトイレのドアの手の触れる部分を次亜塩素酸Na 0.1-0.05%程度の溶液(ハイターを50倍から100倍に薄めたもの)で拭くことが勧められます。

Q 人が集まる場所には、生徒も教職員も極力いかない方が良いですか？

必ずしもそうは言えないと思います。十分な3密対策をとっている場所には十分注意を払いながら行っても良いと考えます。

Q 家庭で気をつける感染対策はありますか。

帰宅した時点で、すぐ石鹸で十分手洗いをするのが重要だと思います。その後、洗顔、うがいをしましょう。

最後に、どんなに気をつけてもうつるときはうつってしまう、これをしたら万全という策は現時点ではないという良いと思いますが、大事なことは発熱や喉の痛み、咳などがあるときはまず学校を休むことを徹底することです。

部活があるから、試験があるからと無理をして登校することは、もしコロナに感染している場合、学校にクラスターを発生させてしまう原因となります。また、昨夜は発熱したが、今朝は下がったので登校したというのも危険です。そういう例が感染していたという報告も多いからです。前日発熱した場合は当日解熱していてもその日は学校を休み、一日はようすを見た方が良いでしょう。また、できるだけ医療機関にかかりましょう。

防災の日

9/1・朝日新聞 天声人語より

明治の初めに米欧を訪れた岩倉使節団は、西洋文化の一つとして公園にも着目した。公式記録『米欧回覧実記』に「西洋人は外に出て人々と交際することが好きであり、それだからこそ、小さな町にも必ず公園が設けられている」と記した。(大久保 喬樹・現代語訳)

一方で東洋人は自宅でくつろぐのを好むから、庭をつくるとも述べている。文化比較

の当否はともかく、公園は近代都市には欠かせないと明治国家の担い手たちは考えたようだ。

東京・日比谷などにできた初期の公園は、鹿鳴館などと同じく欧化政策の一つだったのである。

しかし、1923年の9月1日の関東大震災で、別の有用性に気づかされる。公園の多くが避難所として、地震の引き起こした火災から人々の命を守った。その後の復興計画で、隅田公園などの三つの復興大公園、さらには52の復興小公園がつくられた。小公園は遊具などを備えた子供の遊び場で、学校の近くに設けられた。その多くは今も地元で親しまれている。首都を襲った災禍を忘れぬようにと定められたのが、きょうの防災の日である。防疫の話ばかりが続く昨今だが、天災がコロナ禍を避けてくれるわけではない。もしものときに自分の身を守ってくれる広場や空間はどこか。改めて思い起こしたい。

関東大震災を機に前に進んだのは、公園に限らない。正確な情報が伝わらず、デマが飛び交った反省から、ラジオの放送開始が急がれたと言われる。過去にあった苦難を思いつつ、糧にできれば。

誌上授業公開

1年生の美術の授業では木彫なべ敷きの制作が行われていました。

目標は彫刻刀の種類、材料を確認し彫り方を学ぶ。授業の最初には安全管理について先生からしっかりと指導を受けました。

特に授業の最初では彫刻刀のケガについて十分な注意を呼びかけ、「学校で預かっている大切な子」、そして「その子にケガをさせるわけにはいきません」と子どもたちに強く呼びかけ、留意点について説明していたことが印象に残りました。

その後、DVDを活用し、彫刻刀の種類の確認と使い方についてじっくりと学びました。また、先生は実物投影機を使用し、実演を交えながら彫刻刀の種類による用途や機能をしていねいに説明しました。

さらに、その際にはケガをしないようどこに刃を置き、手を置くべきなのか、あるいはどのように刃を動かすべきなのか時間をかけて子どもたちに教えていました。

その後、生徒たちが描いた図案をもとに、木にデザインを写し、作業がやや早い子は彫刻刀を利用した制作作業に入りました。

先生が授業の進め方の中で配慮していたこととして、木製手順を示すDVDビデオを授業の間流し続けていたことです。生徒たちは作業の途中でも一旦手を止め、ビデオを見ながら手順や留意点、刃の種類や用途を確認することができていました。

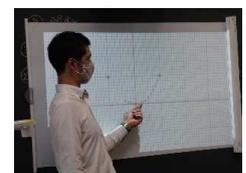
今後、作業を通じてどのようななべ敷きが完成していくのか楽しみです。



3年生数学少人数授業 9/7

3年生の少人数授業では関数、 $y = x^2$ のグラフについて学習していました。

最初に2年生で学習した1次関数、 $y = ax + b$ のグラフについて復習。1次関数ではグラフはどのような線になったのか、先生からの発問で授業は進んでいきました。また、関数の理解には、どのような式、グラフ、表で表現されるのか、しっかりと理解することが関数の理解に結びつということも先生から改めてアドバイスがありました。



その後、 $y = x^2$ のグラフの線はどのようになるのか。 $y = x^2$ のグラフを描こうという本日の目標のもと授業は進みました。

実際に、配付されたグラフ用紙に座標をできるだけ細かく描いてみる作業を通じて、比例や反比例、1次関数とは違う新しい関数について学習していきました。

授業ではグラフ用紙に、表に表したできるだけ細かな数字を入れ、グラフを描く作業が行われました。xに小さな数字を入れてyの値を出し、座標を点で印し、グラフの線をイメージできるようにしました。そのため、授業では電卓が生徒一人一人に貸し出され、細かな小数点まで計算することで座標を求め、その座標がグラフ用紙に描かれる作業が続きました。結果として、多くの点が座標として点で細かく印され、グラフの線のイメージに結びついていきました。



「今、卒業生は」 シリーズ①

令和元年度 女子卒業生

卒業してから、約半年の時が経ちました。新型コロナウイルスの関係で例年と同じ、十分な卒業式はできませんでしたが、先生方が私達のために力を尽くしてくださり、とても思い出に残る一日となりました。

私が進路を考え始めたのは、2年生の3学期からです。その頃から3年の0学期と言われていて、進路について触れるようになりました。

私が進路を決める上で考えたことは柔道が続けるかということです。

中学から柔道を始めた私にとって、高校はルールも変わり、レベルが高くなるのが不安でしたが、3年間で柔道の楽しさ、頑張ることの価値を感じたことで、続けるかどうか、とても悩みました。



その中で、柔道が続ける決め手となったのは3年の夏の都大会です。

目標としていた関東・全国大会には届きませんでしたが、周りの声はまだ一から頑張る力となりました。

それから顧問の先生に助言をいただきながら、色々な高校を見て、11月には進路先を決定しました。

進路先が決まってから試験までの間は、「本当にこの高校で良かったのだろうか。」と不安に感じたこともあり、今、進路選択をしている3年生もそう思うことがあると思います。だけど、どんな場所でも楽しめる力、志さえあれば絶対に大丈夫です。

高校に入ってから、オンライン、分散登校と色々なことを体験し、部活もうまくいかない事ばかりで辛い思いをすることもありますが、中学での頑張った日々が背中を押してくれます。



大切な大会、行事、失われたことが多いと思うけど、そこで腐らずに、一所懸命今を楽しんで、全力で頑張ってください！

皆が中学を思い出した時に、キラキラした素敵な思い出として残ることを願っています。

※「今、卒業生は」と題してシリーズで4回、卒業生の現在の状況等をお伝えします。